

行政改革大綱実施計画 令和2年度評価・総合評価（自己評価）

資料1

【実施結果評価】

・「具体的な取組」について、19項目（全体の47.5%）において、取組目標を達成しました。また、17項目については取組目標の達成には至らなかったものの具体的工程に掲げる作業内容の50%以上を実施し、計画実施率は90.0%となりました。

【成果評価】

・計画期間を通じ、29の「取組事項」において一定の成果があり、このうち17項目においては、取組事項として掲げた内容を上回る成果を得ることができました。

1 実施結果評価 （「具体的な取組」ごとの取組目標に対する実績度合い）

「具体的な取組」のうち、19項目（全体の47.5%）において、取組目標を達成しました。また、17項目については取組目標の達成には至らなかったものの具体的工程に掲げる作業内容の50%以上を実施しました。これらを合わせた計画実施率は90.0%となりました。

一方、作業内容が計画の50%未満となった「取組あり（C）」が2項目ありました。この取組については、具体的工程（作業内容）を見直すなど、課題を踏まえた取組を行います。

なお、計画策定時からの事情変化により取組の見直しを行ったため、「未着手（D）」となった項目が2つありました。この項目については、計画時とは別の形で取組を行い、取組事項における成果を上げています。

区分	評価	
	R2年度	
達成（A）	19	
実施（B）	17	
取組あり（C）	2	
未着手（D）	2	
その他 （実績値確定後に評価）	1	
計	41	

◎改革4(2)①
市町村への権限移譲の推進
◎改革9(1)①
税外債権の適正管理

数値目標等達成率（A）	
47.5%	19/40
計画実施率（A+B）	
90.0%	36/40

※R2年度は実施計画を延長した期間にあたるため、41項目のみ取組を行っています。

2 成果評価 （30の「取組事項」ごとの成果度合い）

計画期間を通じ、29の「取組事項」（全体の96.7%）において計画に掲げる成果が一定程度ありました。そのうち、17項目（全体の56.7%）で、取組事項として掲げた内容を上回る成果がありました。

令和2年度の取組では、23の「取組事項」（全体の92.0%）において計画に掲げる成果が一定程度ありました。そのうち、14項目（全体の56.0%）で、取組事項として掲げた内容を上回る成果がありました。

区分	評価	
	R2年度	総合
大きな成果あり（A）	14	17
成果あり（B）	9	12
実施（C）	2	1
未実施（D）	0	0
計	25	30

◎改革9(1)①
税外債権の適正管理

計画を上回る成果（A）	
R2年度	総合
56.0%	56.7%
14/25	17/30

一定の成果（A+B）	
R2年度	総合
92.0%	96.7%
23/25	29/30

群馬県行財政改革評価・推進委員会（第三者委員会）からの全般的な意見

○総じて、計画に沿って進められていることが伺える。しかし、令和2年度実績評価で「C」と自己評価している項目も見られ、それらについては、なぜそのようになったのかについて理由を付記してほしい。

この資料を県民が見るという前提であれば、現状の表記だけでは抽象的で読み取りづらい部分が散見される。公表の際には、よりわかりやすい表現につとめたり、関連のウェブサイトのURLのリンクを付したりすることも必要である。

○数々の取組に、一県民として、感謝とリスペクトの思いを新たにしたい。これほどのことをしているということが、さらに広く、県民にとってわかりやすい形で伝えてゆくことができれば、と感じる。日頃の仕事に心から感謝申し上げる。

○こうして取り組みの成果と評価が一元管理されるのは素晴らしい資産になると思う。その前提で、他の委員からも同様の意見が出ていることと思うが、やはり行財政改革を目的とした委員会で運用方式が至ってアナログ、というのは若干の違和感がある。私どもの手間が、というよりは、それ以上に職員の取りまとめのご苦労が心苦しい。日程調整や、こうしたエクセルシートの転記、コピペなどもそれにかかる工数や時間など、圧縮できる部分だと思料する。

また、そもそもの評価の方法も、これだけずらっと文字情報として一度に示されても、正直なところ文字面から粗探しをするしかこちらにはできず、本来委員として成果を出すべき本質的なアドバイスや、改善提案の力なども、この方式では十分に発揮されないまま終わってしまうのではないかと懸念する。なんらかの追加（代替）施策、たとえば各セクター、テーマごとに委員が小分け（分科会）になって詳細を伺いフィードバックするとか、あるいは、資料を少なくとももう少し分かりやすい形で評価のポイントに沿って見える化する、第三者の外部有識者として我々がアドバイスすべきポイントをテーマごとに伺うなど、いろいろなやり方はあるように思う。

○特に山本知事になってから、IT活用や情報発信力が著しく高くなったと感じている。実際に行政サービスの利便性を実感できており今後を期待している。

○30の取り組み、60の具体的な展開それぞれについては、とくに意見はない。それよりも今回の動き出しが、県庁にとって、ディフェンシブなものと、オフェンシブな内容が混在している。管理部門から見たらすべて攻めの案件であるかもしれないが、例えば個別に見ると、「適正に管理しましょう」「見直しましょう」「～の健全化」といった、ある意味守備的な内容のものと、民間活力導入のために地域プラットフォームを作ったり、テレワークのためのサテライトオフィスを作ったり、といったある意味オフェンシブな内容が包含されている。

今回の事業は、知事の思いとして、トータルでどのような群馬県庁のDX推進を図っていくのか、そのことを各担当部署にどれだけ浸透しているのかが気になる。上記のような攻守にどう折り合いをつけるのか。規制なのか、チャレンジなのか、そういった基本的な戦略も教えてもらえると、先の委員会でも発言しやすくなると思う。